

福島第一原子力発電所事故を踏まえ、規制基準は大幅に強化されています。

深層防護

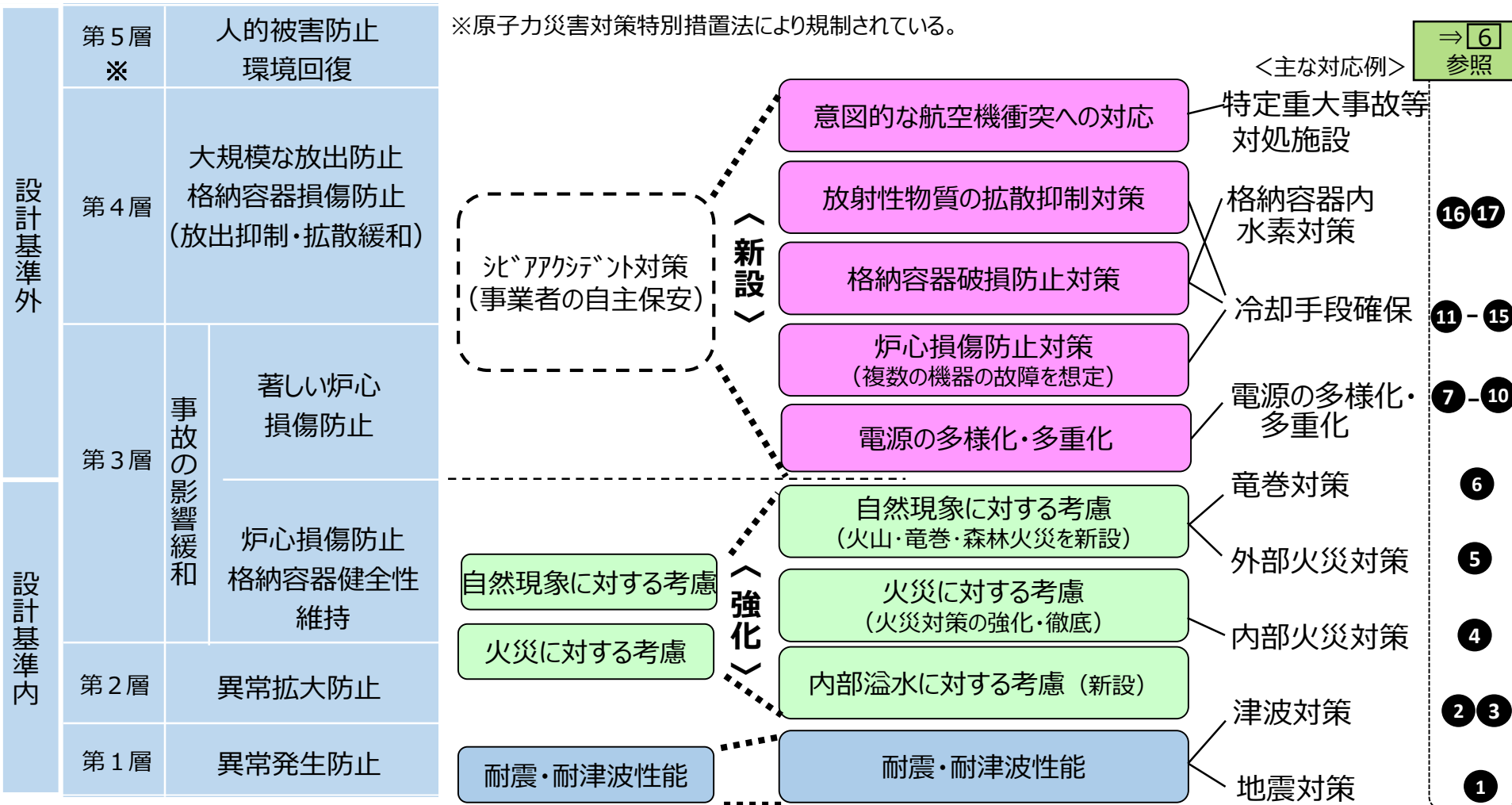
従来の規制基準

新規規制基準（H25.7施行以降）

炉心損傷は想定せず
（単一故障のみを想定等）

シビアアクシデントを防止するための設計基準を強化するとともに、万が一、シビアアクシデントやテロが発生した場合に対処するための基準を新設

※原子力災害対策特別措置法により規制されている。

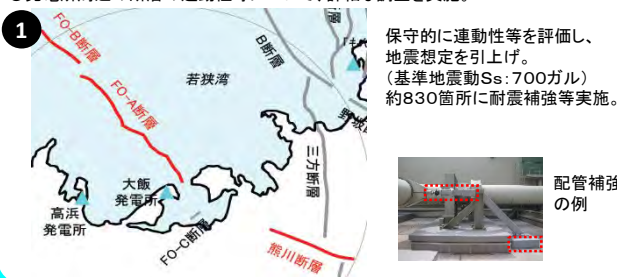


事故の発生・進展・拡大を防止する対策を何段階にも講じており、個々の設備の多重化多様化を図っています。

自然現象から発電所を守る備え(事故発生防止)

地震

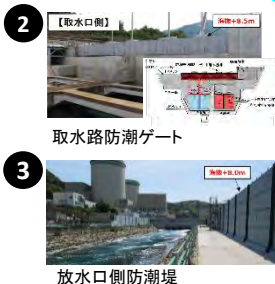
○発電所周辺の断層の運動性等について、詳細な調査を実施。



津波

○最大規模の津波を想定し、取水路防潮ゲート(T.P.+8.5m)、放水口側防潮堤(T.P.+8.0m)を設置。

<水位上昇側>(入力津波高さ)
・取水路閉塞部前面:T.P.+6.2m
・3、4号機海水ポンプ室前面:T.P.+2.8m
・放水路(奥):T.P.+6.7m
<水位下降側>(入力津波高さ)
・3、4号機海水ポンプ室前面:T.P.-2.5m



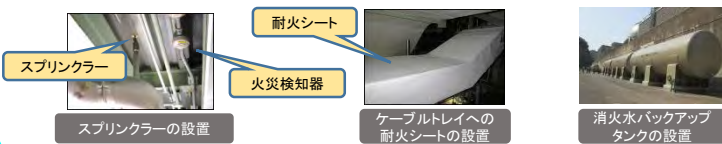
外部火災

○森林火災の延焼を防ぐため、発電所施設周辺の樹木を伐採し、幅18mの防火帯を確保



内部火災

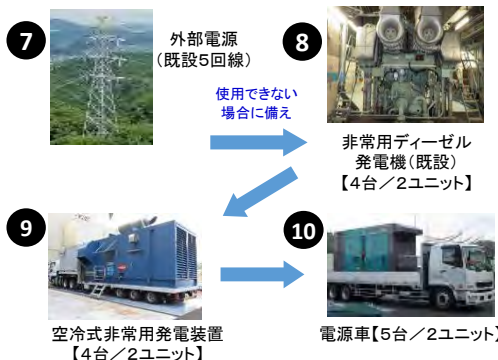
○火災の影響軽減の各防護対策を追加実施。
・ケーブル等に耐火シートを巻き付け。
・異なる種類の火災検知器やハロゲン消火設備に加え、スプリンクラー等を追加設置。



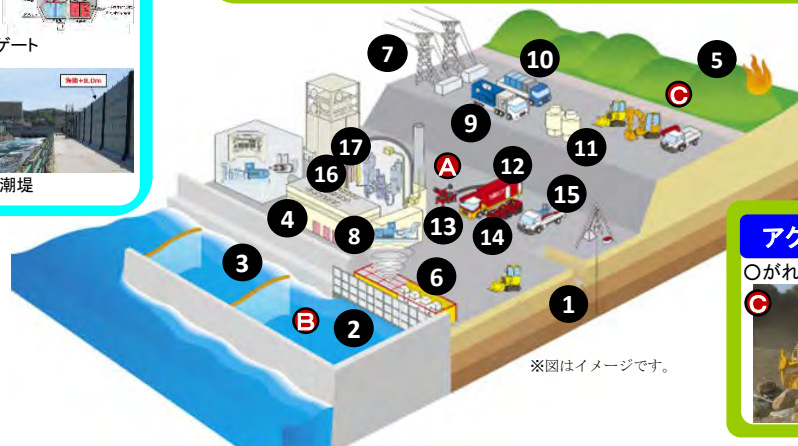
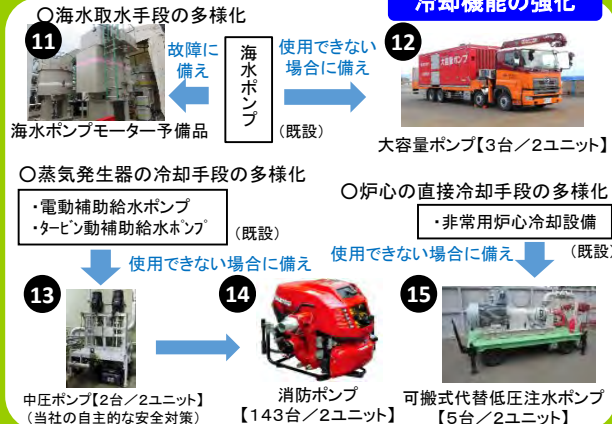
重大事故等対策(事故進展防止)

電源設備

○外部電源の強化や、所内電源を多重化・多様化



冷却機能の強化



※図はイメージです。

アクセスルート確保

○がれき撤去用重機を配備



万一、重大事故が発生した場合に備え

重大事故等対策(事故拡大防止)

放射性物質の放出抑制対策



竜巻

○飛来物から機器を守るために竜巻対策設備を設置*

※過去の日本最大風速(92m/秒)を上回る、風速100m/秒の竜巻が発生した場合に、鋼製材が飛来すると想定



格納容器の水素爆発防止対策

